

富士市SDGsの課題と取り組み

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

目標 17



持続可能な開発に向けて
グローバル・パートナーシップを活性化する

富士市の課題

時代とともに変化する新しい社会的な課題を解決するためには、市民活動を活発にし、町内会等これまでの地域の団体や市民活動団体、市役所等の行政機関だけではなく、企業や学校、金融機関等といった様々な主体による時代に合った「協働」の仕組みづくりが求められます。

SDGsの「パートナーシップ」においても協働は大切な要素ですが、市民活動を活発にしたり、「協働」の仕組みづくりをしたりしていくためには、その活動の担い手を育てることや、団体や個人同士でお互いの存在や考え方を理解し合うという相互理解がとても大切になります。

本市においては、市民活動団体同士や企業同士の相互理解や連携は進んでいるものの、市民活動団体と企業とのマッチングや相互理解はまだ不十分に感じます。

SDGsの目標達成を目指すに当たっても、様々な取り組みにおいて、「パートナーシップ」は重要なため、今後は市民活動団体と企業のさらなる相互理解が深まれば良いと思います。

※「協働」…立場の違う団体同士が、それぞれの特性を生かし、社会的な問題解決などのために、対等の立場で協力・連携して共に働くこと。



市民活動センター



FUJI未来塾

富士市の取り組み

市民活動を活発にして様々な団体同士の協働を進めていくため、富士市民活動センターを拠点とした様々な支援を行っています。具体的には、市民活動に必要な情報を集めて発信したり、活動する場所を提供するほか、活動の相談に乗ったり、講座を開催したりする等、市民活動センターを利用する団体や人にあわせて、きめ細やかにその活動を応援しています。市民活動や協働を進めていくためには、このまちのまちづくり活動を担う人の存在もとても重要になります。このため、自分でまちの課題を見つけ、解決に結びつけられるようなまちづくり活動を担う人材を育てるための講座「FUJI未来塾」を富士市と連携して開催し、このまちの市民活動や協働の担い手の輪がさらに広がるよう取り組んでいます。

本市で良いと思うのは、災害用トイレトレーラーの取り組みです。これは、クラウドファンディングで市内外からふるさと納税として資金を調達して実現したという、周囲を巻き込みながら全体で課題解決に向かっていくという取り組みの集大成だと思います。

富士市のSDGs未来都市計画には2030年までの理想が明記されていますが、この計画を一人でも多くの市民が目を通し、少しでも「自分の事」として考えていくことが大事だと思います。



富士市民活動センターコミュニティf センター長

今屋敷 正成

市民活動の活性化や協働推進のため、市民活動団体やNPO法人等からの様々な相談や課題解決の支援に当たっています。富士市市民協働推進審議会委員として「市民活動との協働に関する基本指針(第三版)」の策定に携わるとともに、富士市NPO協議会事務局長も努めています。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中

